

趣 旨 書

私達は上尾市に FM 放送局を設立しようと、上尾市及び伊奈町在住の有志によって設立活動を行っています。

街の抱える様々な問題については、自治体の職員の方々、議員の方々、それぞれの地域の自治会の役員皆様の日々の努力によって向上しているものと思います。そして上尾市や伊奈町に住む一人の生活者の視線から、自治体や関係者の活動とは違った別の切り口で、自分たちには何が出来るかを考え、ここに自分たちにも出来ることをやろうと感じた方々が集まりました。

一緒にこの活動の趣旨に賛同して頂ける方々を広く募集していきます。

私達は以下のポリシーを基準として掲げました。

ミッション

- **地域の人と人、人とまちを結び、「まちを元気」する FM 放送局を目指します。**
- **地域のみならず一緒に「市民参加型」の FM 放送局を目指します。**
- **災害時には命を守るための情報等を提供し、「安全なまちづくり」の一翼が担える FM 放送局を目指します**

上尾市は古くからの町で、かつては宿場町の上尾町、荒川水運の平方町、街道市の原市町、紅花の上平村、領地であった大石村、古くから郷であった大谷村が合わさって上尾市が誕生しました。それぞれの地区は歴史的伝統が引き継がれ今に至っており、それぞれの地区ではお祭とかが実施されていて、纏まりが取れていると感じられます。逆に地区間を超えたようなイベントとかはあまり無いように感じられます。

また、人口推移調査によると、上尾市は毎年5%の人口の流出入があり、数字だけを見れば、20年で人が入れ替わることになります。

これは伊奈町にも同じで、街の南側は古くから代々住んでいる住民が多く、北側は他の市町村から新たに伊奈街に引っ越してきた人が多い様に感じられます。従来から住んでいる人と、新しく来た人との間にはどうしても意識の違いは生じるかと思われまます。

無論、それら地域や上尾・伊奈に住んでいる年数の違いの他に、世代間の意識の違いも当然としてあります。

上尾・伊奈は自治体関係者のおかげで、他の市町村の人から子育ての環境が整っていると聞かされます。でも、小さい赤ちゃんを抱えた親は子育てに必要な身近な情報が不足したり、様々な悩みを相談できる場所やストレスを発散できる場所を欲したりすることが有ります。

また同様にスポーツをする環境はそれなりに整っていると聞かされます。同時に色々なスポーツ団体もありますが、情報発信が上手く行っていますでしょうか？上尾にはVリーグ1部のバレーボールがありますが、サッカーのような地域の盛り上がりが少ない様に思えます。

「あげおエフエム」は寧ろそれら各地区や各世代、居住年数の違いによって持っている様々な情報を多くの人々に共有・提供することお手伝い、そして情報を必要とする人達、情報を発信したい人達に寄り添うことによって、人と人、人と街を繋ぐきっかけの一つになることを目指したいと考えます。

そのために、「あげおエフエム」は市民参加型の放送局を目指します。話し方の上手い都内在住のプロの方よりは、上尾・伊奈の事を昔から知っているおじさん、あばさん、上尾・伊奈の学校や職場に通っているお兄ちゃん、お姉ちゃん、上尾・伊奈で生を受けた僕くん、お嬢ちゃんにFMラジオでの語り部をして頂きたいと考えています。それぞれの地域や世代間の「あるある」な話題やお店の紹介、学校や職場での出来事等々、目新しい話題だけではなく、共感・共有出来るちょっとした話題の積み重ねを行っていくことを目指します。

「あげおエフエム」の運営・情報発信に関しましても、多くの上尾市や伊奈町に在住の方、通勤・通学の方、実家がある方、かつて此処の地で青春を過ごした方の参加を広く呼び掛ける所存です。

上尾・伊奈は関東平野のほぼ真ん中に位置していて、ほぼ大宮台地の上に乗っていますので、災害は少ない街だと思っていました。海が無いので大潮や津波は無いし、山が無いので雪崩や土砂崩れの心配もない。埼玉は比較的竜巻の発生回数が多いのですが、過去の記録を見る限りでは上尾・伊奈を取り囲むかのように何故か周辺の市町村で発生しています。

しかしながら2019年の台風19号では、上尾市内でも大きな被害をもたらしていました。隣の川越の方が視覚的にも大きな被害でしたのでテレビ各局はそちらの映像ばかりで、上尾市の住民も被害地周辺に住んでする人を除くと、被害の状況が伝わっていませんでした。

また、2011年の東日本大震災の事を考えるとどうでしょうか？近い将来起きると言われている[首都直下型地震]や[相模トラフ地震][南海トラフ地震]が発生した場合、規模が大き過ぎるので、どこまで国の中枢が機能しているのか分からない部分があり『公助』だけに頼るのは難しいかもしれません。そのために私たちは『自助努力』『共助活動』で生き延びることになります。

「あげおエフエム」で出来ることは『共助活動』の補完となることです。避難場所や物資の状況情報の伝達。僅かですが心の安寧の手助け。災害で電柱が倒れたりしたら電気や通信(ネットやスマホ、防災無線)が使えなくなることが容易に予想されます。電池とラジオさえ用意されていれば、私たちは情報を伝達することが出来ます。